

2021

8
August

十三公民館だより

発行 十三公民館 ☎・Fax 91-1755



七夕

七夕は五節句のひとつとして、7月7日の夜、天の川で隔てられた彦星と織媛が、年に一度だけ逢うという伝説にちなんだ年中行事です。

公民館を利用している学童保育児童たちは日頃から抱えている夢や希望などを短冊に書き、「こなんしょうがこうで100てんがとら



るように」、「しょうらいかんごしになれるように」、「野球のルールをもっと知りたいです」、「あしがはやくになりますように」、「ブロックがじょうずにつくれますように」、「そろばんをがんばれますように」、「あたまがよくなりますように」、「無病息災」、「すきなところにいけますように」、「バドミントンがもっとじょうずになりますように」、「Tボール大会で全国大会にいきたいです」、「あたしはみんなとなかよしになりますように」、「こくごのてすとひゃくてん

になれるように」などなど……。飾り付けた後、公民館の玄関先にたてました。

8月の講座案内



講座名	曜日	実施日	時間	講師名
詩吟	月	2日・9日・16日・23日・30日	10時30分～	平井静子先生
茶道	水	25日(保育園)	10時00分～	
三味線	木	12日・26日	19時30分～	山下茂昭先生
手芸	火	8月休講	13時00分～	

どの講座も余裕がありますので、受講される方をお待ちしています。十三公民館 ☎91-1755

飯久保城跡

氷見市立博物館 2010-10-15 発行

『山城探訪』—よみがえる中世—より

飯久保城跡は、氷見市南部の飯久保・神代地区の丘陵に所在します。中世には南条保と呼ばれた地域で、布勢水海を介した水運で氷見湊と結ばれ、背後の丘陵を越えると射水・砺波地域とも通じた立地です。

城跡は南北約300m、東西約200mの範囲に郭・堀切・土塁・堅堀・切岸などの遺構が認められます。

城下にあたる城飯久保地区には、比較的広い屋敷地の地割がうかがえ、その周囲は仏生寺川と深い水田によって自然の防御になっていたようです。

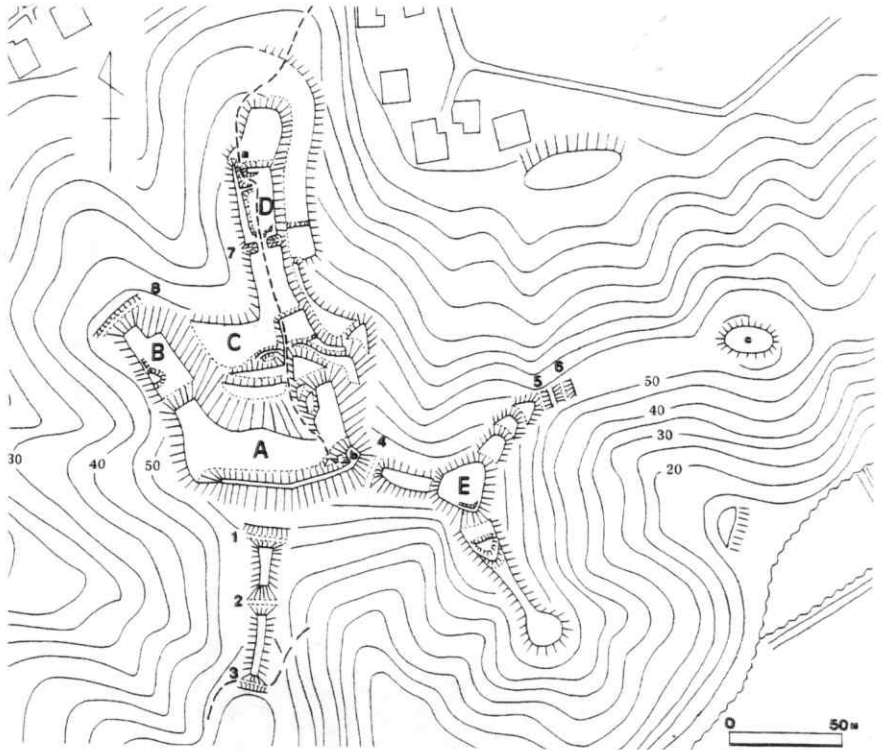
また、仏生寺川に架かる鍛冶屋橋のたもとは、鍛冶屋町の地名が残っています。

城主と伝えられる狩野氏の出自は不明ですが、南北朝期の頃から居住していたのではないかと推定されます。永禄年間には人質を出して神保長職に属していましたが、その後上杉謙信に従いました。謙信没後はいち早く織田方へと転じたようです。また、光久寺に寺地等を寄進しています。おそらく佐々成政の降伏に伴い城を退去したと考えられますが、その後江戸に出て浪人していた子孫が、富山藩に仕えています。

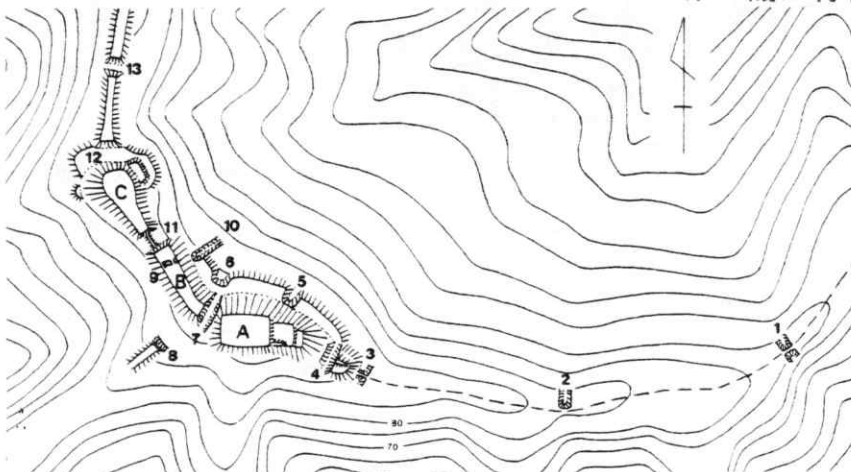
土塁と堅堀によって構成された虎口空間（D）をもつ飯久保城の出入口。前田利家によって改修された能登七尾城本丸の出入口と共通する要素があります。飯久保城跡主郭背後に壁のようにそびえる土塁は、高さ5m以上もあり、城跡の特徴のひとつです。この土塁の東端は櫓状になっており、ここからは氷見湊が所在した市街地や富山湾が遠望できます。主郭の発掘調査では、整地層と考えられる面が確認され、16世紀後半の遺物が出土しました。出土遺物には茶臼の破片が含まれており、ここで茶の湯が行われたと考えられます。

飯久保城跡の西1.2kmの地点には惣領砦跡があり、ここには狩野氏の家老大前左近と奥野主馬が居城したと伝えられます。さらに西側奥の鞍骨山（御林山）城跡も、狩野氏の城と伝えられています。

一方東側には谷をへだてて神代城跡と堀田城跡があり、飯久保城跡と一直線に並んでいます。



飯久保城跡縄張図※（Aが主郭・Dが虎口空間）



惣領砦跡縄張図※